

## 折に触れ 四字熟語

### NO.82 『不敗之地』 ふはいのち

< 意味 > 攻撃しづらく、決して攻め落とせない要害の場所に位置していること。負けない立場や地位。

出 展 : 「孫子」 軍形

「古之所謂善戦者、勝於易勝者也。  
故善戦者之勝也、無智名、無勇功。  
故其戦勝不忒。不忒者、其所措必勝。  
勝已敗者也。故善戦者、立於不敗之地、而不失敵之敗也。是故勝兵先勝  
而後求戦、敗兵先戦而後求勝。」

読み下し : 『古<sup>いにしえ</sup>のいわゆる善く戦う者は、勝ち易きに勝つ者なり。故に善く戦う者の勝つや、智名なく、勇功なし。故にその戦い勝ち<sup>たが</sup>て忒わず。忒わざるは、その措くところ必ず勝つ。すでに敗る<sup>やぶ</sup>る者に勝てばなり。故に善く戦う者は不敗の地に立ち、而して敵の敗を失わず。この故に勝兵はまず勝ちて而る後に戦いを求め、敗兵はまず戦いて而る後に勝を求む。』

通 釈 : 本当の戦上手は、まず勝ち得る条件を作っておき、自然に勝つ。したがって、勝ってもその知謀は人の目につかず、その勇敢さは人から称赞されることもない。つまり、戦上手は、確実な方法で勝ち、打つ手打つ手がすべて勝利に通ずる。戦う前から敗けている敵を相手にするのだから、勝つのは当然である。自軍を不敗の態勢におき、しかも敵のいささかの隙も見逃さない。これが戦上手の戦法なのである。

したがって、勝つか敗けるかは、まず勝利の条件をととのえてから戦争をはじめるか、それとも、まず戦争をはじめてから勝利をつかもうとするか、によってきまる。勝利を収める軍隊は前者であり、敗北に追いやられる軍隊は後者である。

表 現 : 不敗の地に立つ。

一 言 : 勝、敗シリーズ その2

サッカー・ワールドカップでの日本チームの活躍を願って「勝、敗シリーズ」を始めましたが、残念ながらベスト16で終わりました。現在、新しい監督の選考が行われているようですが、「本当の戦上手」の指揮官が選ばれて、4年後には日本チームが更なる活躍をしてくれることを祈りましょう。

参照文献 : 三省堂・新明解「四字熟語辞典」 徳間書店「孫子・呉子」